

J24 World Council Meeting 参加レポート

関東フリート:杉貴

1. 全体スケジュール

(1) 10月20日(金)

- ・ 14時: 2018年 World 開催ヨットクラブの施設説明とインスペクション
- ・ 18時: ソーシャルイベント(参加者全員によるディナー)

(2) 10月21日(土)

- ・ 9時より終日 WCM を開催
- ・ 19時: ソーシャルイベント(参加者全員によるディナー)

2. 議事次第

- ・ 開催宣言から 2016 年度 WCM 議事録承認までは、定形事項として審議され、特段の発言とも無し。
- ・ Chair`s Ocerview として、Nancy が挨拶
 - 2017 年の World は天候には恵まれなかったが成功裏に終了
 - 今後 Regatta の開催フォーマットをアップデートすることも必要と考えている。本件については、今後も関係各位と連絡を密にしながら、ディスカッションしていきたい。
- ・ Chris より全体活動の振り返りについてレポート
 - 財務数値: メンバーシップの減少により、収入は減少したものの、ロイヤリティ収入の増加やコストの減少により、黒字を確保。
 - 計測について: 本年は新たに 120 艇について、新規/再計測を実施
 - ニュースレター: 2017 年度は 3 回のニュースレターを発行。広告収入増に向けて今後も取り組んでいく。
 - US Watercraft が倒産し、J Boat Italy も J24 の Build に熱心では無い状況。アルゼンチンのビルダーは非常に Quality も高く、また価格も安価であり、現時点で新造する際のベストチョイスである。
 - SNS: Facebook 等への投稿による露出度アップ策を継続実施
 - ※ 今回のミーティングの大きな Issue が SNS を活用した認知度の取り組みでした。
- ・ Tim より技術委員会の振り返りおよびルール変更についてレポートと審議
 - 消耗品について、インベントリーに記載されていない点は改めて行く必要があると考える。特にエンジンはガソリン抜きで重量を計測するが、一方でエンジン

はすぐに動かせる状態でなければならない、と規定されている。この標記の矛盾については近々に指針を出すべきと考える。

※ 今回のルールや計測の変更等は、大きな変更はなく、文言の整理や条文の矛盾、不要な条文の削除等、規程の整理に重きが置かれていた。

- カーボンの使用についての質問が多く挙がっている。カーボンが安価となりよりポピュラーな素材となっていることに起因したものと考えられ、今後はサプライヤーが指定されている製品でなければ、使用することに特段の問題は無いと考える(当然カーボン製のハルはNG)。
- クラスルールの改訂は、主としては文言や矛盾内容の整理、不要な条文の削除を考えている。これらにより、より実用的なクラスルールを策定していきたい。
- 唯一の変更点として考えているのは、
2.2 チェーンプレートのメインバルクヘッドへの取り付け位置変更、ならびにチェーンプレートより大型の Backer Plate の使用(取り付け)を認めること。現時点でも、仮にチェーンプレートの位置を動かしても、計測段階において把握するのが難しいこと、また、艇の耐久性の向上ひいては安全性の向上の資する改造であることを鑑み、提案した。大型の Backer Plate を使用しても、重量バランス等に大きな影響は無いと考えられ、艇の補強や安全性の向上には有効な改造であることから、全会一致で可決した。
⇒チェーンプレートの取り付け位置が左右対称でない場合には、その位置を変更し、左右対称にできる
⇒バルクヘッド前方にチェーンプレートを補強する Backer Plate を取り付けることができる(最大 60,000sqmm、厚さや重量の定義は無し)
#以下その他のマイナールール変更について
- 2.4 セール重量をピーク部分にサインやスタンプと共に記載する条文は削除する(各セールの計測の条項に既に記載されているため)
- 3.3 ピーク、クリュー、各バテンポケットを結ぶラインからリーチがはみ出してはいけない、とする条文を削除(そもそも当該条文が追加された理由が不明、厳密にみると殆どすべてのセールがこの条項に反していること、リーチの滑らかな曲線は一般的なセールメイキングの慣行にも合致しているため)
- 3.4 文言の整理(Head から Haed Point、Clew から Clew Point)
- 5.2 ジブのリーチについて、ヘッドからクリューを結ぶ直線ラインから 40mm 以上ずれてはいけない、という文言を追加。従来もこのような運用を行ってきたが、当該条項が削除されていたため。
- 6.3 文言の整理(Head から Haed Point、Clew から Clew Point)
- 現在、CR4.2: ブームチップ重量の制限(3.3kgs)を撤廃することを議論している。レガッタにおける計測の簡素化を念頭に、引き続き議論していく。

3. Regatta Regulation

- ・ 2017年6月に承認された改訂レギュレーションがWEBにアップロードされている。ワールド、コンチネンタルだけでなく、各国の大会(National)についてもガイドラインが示されている。

4. 2017年カナダワールドレポート

- ・ スポンサーシップ、観覧艇、ソーシャルメディア等への露出は順調に行われた
- ・ 急遽参加を取りやめる艇があり、そのスロットを Qualified チームに再配分することに苦労を伴った。
- ・ チャーター艇は、カナダだけでなく、アメリカからも拠出された。
- ・ 2016年の北米選手権がコミッティーやジュリーにも良いテストランとなった。
- ・ 高気圧の停滞により微風となった。
- ・ 予算編成や計測、駐車場等では難しい部分もあったが、クリスのサポートもあり、乗り越えることができた。
- ・ Regatta Regulation に精通した Chair を確保することが非常に重要と感じた。

5. 2018年ワールドについて

- ・ ガルダ湖にて開催予定、レガッタ開催には十分な経験があり、風も安定している。
- ・ スポンサーも決定し、昨日はヨットクラブ施設の視察も実施された。
- ・ チャーターフィーは、3,000EUR から 3,500EUR の予定
- ・ ホテルについても、特別料金を出す予定。
- ・ ハンガリーもチャーターボートについて協力をを行う予定
- ・ Web サイトも近々にアップされる予定

6. 2019年ワールド

- ・ マイアミで開催予定
- ・ コスト削減のために、Jury を同時期に開催される別レガッタとの共用も考えている。

7. 2020年ワールド

- ・ イギリス、Poole で開催予定
- ・ 既に Web サイトも公開中

8. 2021年ワールド

- ・ ヨーロッパまたは北米以外で開催の方向であったが、候補が現れず。オーストラリアに声を掛けたが、チャーター艇不足等により断りが入った。本件は継続審議予定。

9. コンチネンタル選手権

- ・ 2017年のヨーロッパ選手権(ハンガリー)は成功裏に終了。Melges24チームからも参戦があった。
- ・ 2018年(ドイツ)、2019年(ギリシャ:日本のGW)、2020年(未定だがフランスの予定)
- ・ 2018年(チャールストン)、2019年(メキシコ)、2020年(ブルーポイント(アメリカ))
- ・ 2018年(アルゼンチン)

10. J24 プロモーションについて

- ・ イギリスの Web サイトを活用した事例について、管理等の問題はあるが、3位以内のチームにはレポートの作成が義務づけられる、事例紹介。
- ・ Facebookの有効性について、特にハンガリーでのヨーロッパ選手権では、すべての情報がFacebookを通して入手可能であり、非常に有益であった。
- ・ ユースチームへのボートドネーション(寄付)について、亡くなったオーナーのボートをユースチームに無償で貸し出した。相続税節税効果もあった模様、ユースチームは6チームが候補となったが、面接等で1チームを選定。定期的にレポートを行わせるとともに、メンテナンスにも取り組ませている。

11. 次年度に向けて

- ・ NORやSIの見直し
- ・ ペナルティテーブルの再検討
- ・ 水上での審判について
- ・ 等について、次回以降の議題として検討していく

12. 次回の開催

- ・ 2018年10月20日、マイアミにて開催

13. Fraglia Vela, Riva del Garda ヨットクラブについて

- ・ レガッタ開催経験は非常に豊富、年に数十回のレガッタを開催
- ・ 風向/風速とも安定しており、昼は南の風が安定しており、レース用に定点ブイが打たれている(当日の風向により、どの定点ブイにマークを付けるか決める)。
- ・ 約80艇のJ24が停泊可能
- ・ 施設全体は小ぶりの印象、プロテストルーム等はかなり小さい。
- ・ 交通はベローナから車(90分)が便利、鉄道とバスでもたどり着けるが、セール等を持参しての移動は多少厳しい。

以上